



野寺小だより

たんぽぽのように やさしく つよく のびのびと

～ 家庭・地域とともに一人一人が輝く野寺小学校 ～

学校教育目標

- ・よく聴き、よく考える子
- ・心のゆたかな子
- ・からだのじょうぶな子

児童数 700名

8,9月号 令和4年8月29日

失敗を恐れず、可能性を伸ばそう

校長 保戸田雅之

地域に愛されている子供たち

新型コロナウイルスの感染者数は高止まりの状況が続いていますが、行動制限なく2学期のスタートを迎えることができました。

感染予防をはじめとする夏休み中の体調管理や宿題の支援など、ご家庭のご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。



「栗原五丁目又六太鼓」演奏披露の様子

8月21日(日)には、八石小学校を会場に「野寺町会夏まつり」が開催され、地域の活気を感じることができました。

感染防止に気を配りながら、「地域の子供たちが楽しめるように」ということを第一に考えて計画してくださった実行委員の皆様には感謝したいと思います。

私も、様々な場面で学区内の町会長さんや地域の方々とは接する機会がありますが、どの方も口々に「子供たちのために」とおっしゃってくださいます。これだけ大切にされている子供たちを地域に貢献できるように育てることが、学校の大きな役割の一つであると、お祭りの様子を見ながら改めて考えました。

2学期のスタートにあたり

さて、様々な学校行事を織り交ぜながら、学習やスポーツにと最も充実する2学期、子供たち一人一人のがんばりに大いに期待するところです。始業式では、次の2つについて子供たちに話しました。

「当たり前のことをきちんとやること」

朝、友達に会ったら「おはよう」とあいさつすること、助けてもらったり、優しくしてもらったりしたら「ありがとう」と伝えること、掃除は黙って、隅々まできれいにすることなど、やって当然のこと、できて当たり前ことは手を抜かない野寺っ子でいてほしい。

「活躍できる場所を見つけること」

学習に限らず学校生活の中で、自分の得意なこと、自信のあることを自覚して、ここぞというときには一歩前に出る。失敗を恐れない。そして、誰かの役に立つことに喜びを感じる野寺っ子でいてほしい。

「凡事徹底」(当たり前のことを、人には真似出来ないほど一生懸命にやること)という言葉があります。勤勉さが日本人の美德でもあります。まじめに頑張れる野寺っ子が、もっともっと増えるといいなと思います。

一方で、積極性のある子に隠れて、自分らしさや自分のよさを生かすことを遠慮している野寺っ子も少なからずいます。最近の子供たちの傾向として、失敗に対して少し臆病なところがあります。「トライ・アンド・エラー(試行錯誤)」という言葉があるように、正解の確信が持てるものだけに手を出すのではなく、試しにやってみて、失敗したら考えて、もう一度試してみるという学び方をもっと経験させたいと思います。

失敗する前にやり方を教えすぎたり、考えさせずに指示に従わせたりという、「転ばぬ先の杖」的な発想から視点を変えていきたいです。マニュアル依存にならないように、野寺っ子の可能性を伸ばしていきたいと思います。

これは、学校だけでできることではありません。ぜひ、ご家庭での励まし、後押しの支援をお願いいたします。

